

科名 外科

対象疾患 HER2陽性転移再発乳癌

プロトコール名 HP+DOC2回目以降

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	...	8	...	15	...	21
1	点滴注	メイン	生理食塩液	500mL	ルートキープ 残破棄可	↓						
2	点滴注	側管	パージェタ	420mg	60分かけて	↓						
			生食	250mL								
3	点滴注	側管	トラスツズマブ注	6mg/Kg	初回90分。以降忍容性があれば30分。 ただし、初回にインフュージョンリアクションあれば 2回目60分。以降忍容性あれば30分。	↓						
			注射用水	7.2mL								
			生食	250mL								
4	点滴注	側管	デキササート	6.6mg	30分かけて	↓						
			生食	50mL								
5	点滴注	側管	クロール・トリメトン	10mg	30分かけて	↓						
			生食	50mL								
6	点滴注	側管	ドセタキセル	75,70,60mg/m ²	60分かけて	↓						
			生食	250mL	壊死性抗がん剤							

★1クール=21日

～MEMO～

催吐レベル2(10%以上30%未満)

<パージェタ>

初回840mgを60分以上、二回目以降は420mgを30分以上かけて

初回投与の13%にインフュージョンリアクション。投与中または投与開始後24時間は慎重に観察

投与終了後、初回投与時に60分ルートキープで休薬、経過観察を行い、2クール目以降も慎重に観察

通常の患者は12週ごと、無症候性心機能障害患者は6～8週ごと心機能を評価

<トラスツズマブ>

初回8mg/kg、2回目以降6mg/kg。初回90分で忍容性があれば2回目以降30分。ただし、初回にインフュージョンリアクションあれば2回目60分。以降忍容性あれば30分。

禁忌:アンスラサイクリン系との併用(心毒性の増強)

初回投与の40%にインフュージョンリアクションが認められる。投与開始後2時間は慎重に観察

三か月毎に心エコーで心機能を評価

最終投与から6週以上経過した場合は初回投与量(8mg/kg)より再開する。

<ドセタキセル>

調製時、完全に溶解、混和したことが確認できるまで緩やかに混和操作を繰り返すこと。

初回、二回目まではアレルギーの出現に注意。

投与開始から10分間はベッドサイドを離れない。

薬剤の特徴により1mL=20滴とならないため滴下数を1.5倍にすること。

(1hrで滴下する場合126滴/分)